

あかね

明石市立明石商業高等学校図書館発行



読書のすすめ

「人は聞き方が9割」

永松 茂久 著

校長 橋本 浩二

企業へのアンケートで今の高校生に足りない力、つけてもらいたい力で常に上位にあがる一つに「コミュニケーション能力」があります。「高校生に」といいましたが、これは子どもから大人まで共通だと思います。

では、コミュニケーション能力とは何か。一般にいわれるのが、「人と人とのやり取りにおいて、お互いの意思疎通をスムーズにするためのスキル」です。円滑な人間関係を築くためには大切な能力だといえます。

そこで今回紹介したい本が「人は聞き方が9割」です。この著者は「人は話し方が9割」という本も書いています。後者の本も読んだのですが、タイトルの「話し方」とありますが、実はその本の中でも「聞き方」の大切さは記されています。コミュニケーションといえ自分の思いをいかに上手く伝えるか、そのためにはどのような話し方を心がければいいかと考えがちですが、実はコミュニケーションで最も大切なのは「聞く力」だと解いているの

が本書です。人の話を聞くときの表情であったり姿勢、更には聞いている立場としてどのような反応をすることがベストなのか等、人の話の聞き方について非常に参考になります。逆に話を聞くときの「やっつけ」はいけない事について詳しく書かれています。

テレビのバラエティ番組などでMCとして息長く活躍できている人、例えば、明石家さんまさん、上田晋也さんなどは、おもしろいことも言いますが、実は「聞く力」が優れているといわれます。人がどんな人と話したくなる聞き方、人の話を聞いた時のリアクションなど参考になることは多いそうです。そう思ってみると、人の話を否定せず、前のめりに話を聞き、しっかりと反応するなど聞き方の上手さが際立っています。話をする人たちが心地よく、楽しそうに話をしている。これを引き出す「聞き方」のスキルが凄いと感じます。

ぜひ一読し、コミュニケーション能力の正体を知り、円滑な人間関係を築く力を身につけてください。

「リーダーの仮面」

安藤 広大 著

教頭 前島 伸一郎

地域で一番安い〇〇閉店直前セール全品70%オフ 人

の目を引くために多くのキヤッチコピーがあります。本著のキヤッチコピーは【超メガヒット・異例の3年間ベストセラー・1番売れているリーダーシップ本】このキヤッチコピーで目を引くかは人それぞれですが、皆さんの中で、進んでリーダーになっっている人はどれくらいいますか？

クラス委員長や実行委員長など自ら立候補し、ビジョンを立て取り組む人はほんとは貴重で、今後その資質は大いに役に役立ちます。(今はやりの非認知能力の持ち主かも)

しかしながら、その役職はあるのに、多くは他人からの推薦、はたまたじゃんけんによって、嫌々引き受けるなんてこともあると思います。

かく言う大人の世界でも同じで、教頭先生のなり手がいません。何かの部長は嫌ですなんてことはざらで、多くのリーダー的役割は、なりたくてなるものではなく、最終的に誰かが引き受け回ってくるものとなっています。

この著書は、リーダーとしてどのように組織を回し、チームの結果を最大化させるかを5つのポイントにまとめそれを仮面に仕立て、元来リーダー気質のない人がその仮面を被りマネジメントをしていくための参考書となっっています。

そのなかで、私のはっとさせられたことにプレーヤー

から頭を切り替えマネジメントを優先し、マネージャーに専念するということです。私が、この立場になったときに、プレイングマネージャーとして、多くの仕掛けや取組みを先頭に立って実践し、多くの場面でプレーヤーとして動きたいと考えていました。しかしこの著書によると、その分多くの人の学ぶ機会を奪ってしまう。また、多くの場合プレーヤーとしての全盛期は30代であり、自分自身のアイデアは、年を取るにつれ衰え、その良かれと思う行動が残念な結果につながってしまう。とあります。

この少子化の時代、いずれリーダーになっっていく皆さん。リーダーの仮面を被る必要がある場面が来るかもしれません。自らの見識を広げ、楽しみながら自らの仮面を作っっていくと嬉しそうです。

「7日でマスター 株がおもしろいくらい分かる本」

梶田 洋平 著

事務局長 前園 直孝

「社会人になるけど、就職先の会社の株のことぐらい知っておきたい。」

「選択の授業で株のことを教えてもらったけど、もっと知りたい！」

「将来のお金のことが何となく不安」
「物価がどんどん上がる

のに貯金だけで大丈夫なんかなあ」
「NISAって聞くけど何のことやろ?」

そんな人に向け、そもそも株ってなに?ということから、株の始め方、どういった場合に売り買ひしたら利益が出やすいか、お金をどうやって管理するかなどを7日でマスターできるようなってしています。

図表を交え初心者3人と投資の先生の会話形式で解説する形式です。

「株って難しくよく分からへん!」

そんな初心者以前の素人の方向けに、投資学習アドバイザーの先生が「ゆつくり」「やさしく」株のはじめ方から儲け方までを解説してくれます。極力難しい言葉を使わずに、解説しているのが高校生でも大丈夫!

イラストを多く含み、会話形式で進むので、ストーリーを追うようにスムーズに読み進めることができます。

「株をはじめたいけど、買うための貯金がそもそもないんです」

「株って暴落する危険があつて、安全な方法ってないですか?」

こんな方のために、資産の形成をしてから株を買う手順まで、また、安全なリスクの分散についても解説しています。

【1日目〜2日目】には、「投資や株って何?」「株をはじめるとどんな準備をしなければならないの?」ということを学び、

【3日目】には、株がどういったときに上がるか、下がるか

【4日目】実戦! ここが得する売買サイン!・・・などが学べます。

興味がある人はこの本を手にとってみてください。

「52ヘルツのクジラたち」

町田 そのこ 著

一年二組 担任

稲山 安生

何気なく明石をウロウロ歩いてひよいと本屋に飛び込んだ。何やらわけのわからないタイトルの本に焦点が合った。「本屋大賞作品」と目のつきやすいコーナーにその本は置かれていた。歴史小説が好きでそれ以外の本にはあまり興味がなくスルーしようかと思つたが手に取つて少し読んでみた。

物語の舞台は風光明媚な大分県の海辺の町である。都会生活で修羅場を経験した若い女性が逃げるようにして手に入れた安息の地。静寂を求めていたはずのその場所までひと騒動巻き起こる。そこに自分を「ムシ」と呼ぶひとりの少年が転がり込んでくる。母親から愛されない彼もまた小さな背中に大きな十字架を背負っていた。過酷な運命に翻弄されながらもひたむきに生きる登場人物たちの姿を目の当たりにして改めて命の尊さが伝わってきた。「命の番(つがい)」というキーワードで登場人物を生き生きと表現している。是非読んでみてください。

「認知症でも心は豊かに生きていく」

長谷川 和夫 著

福祉科 伍賀 正

認知症という言葉は、テレビでも頻繁に取り上げられているテーマです。誰もがなりたくない認知症ではあります。認知症かどうかの判断基準となる「長谷川式認知症スケール(HDS-R)」をつくつて、世界に広めたのが著者の長谷川先生です。

日本の医学者・精神科医。聖マリアンナ医科大学名誉教授で、専門は老年精神医学・認知症であり、認知症医療の第一人者としても知られています。「痴呆」から「認知症」という名称変更の立役者でもあります。

その分野では世界でも有名な業績を残している先生ですが、2017年に自ら認知症になり、「認知症になつてはじめてわかることがある」と言つて、講演活動や執筆

筆を続けましたが、2021年に天に召されました。この本は、長谷川先生の言行をわかりやすくまとめて、2020年に発刊されたものです。「人生100年時代」「認知症700万人時代」と言われている中で、誰もが認知症になりえるだけでなく、認知症の人がいて当たり前前の社会であるということ、皆さんもこの本から感じ取りましょう。

「ソクラテスの弁明」

プラトン 著

一年三組 担任

小西 美帆

「無知の知」という言葉を知っていますか?これはソクラテスという哲学者の言葉です。無知の知とは「他の人よりも「知らない」ということを知っている」とつまり、無知を自覚しているという状態です。例えばあなたが料理人だとして、「料理の技術や知識は他の人より優れているが、他の分野については他の人より知らない」と自覚することが無知の知です。

「私は他の人よりも知識や技術を持っていて、自分はこの人よりも知恵があるんだ。だから私は偉い」と偉そうにしている人々に対して、ソクラテスは「他の人よりも「知らないことがある」と知っている点で、私はあなたより知恵がある」と言つて回つたのです。これだけを聞く

「不作法は人柄のよさまで帳消しにする」

「自助論」

サミュエル・スマイルズ 著

一年六組 担任

齊藤 佳代

「天は自ら助くる者を助く」とは、サミュエル・スマイルズの著書『自助論』の書き出しです。日本では、明治期に中村正直が翻訳し『西国立志編』というタイトルで発売され、当時100万部ほど売れたそうです。福沢諭吉著『学問のすゝめ』と共に日本の明治維新期の青年たちに影響力をもたらし、書物でした。時代が変わつても読み続けられている『自助論』の魅力は、まるで医師から処方される薬のように読めば心

昨年、阪神タイガースは18年ぶりのリーグ優勝、38年ぶり2度目の日本一に輝きま

福祉科 佐々木 賀子

「奇跡のバックホーム」 横田 慎太郎 著

令和6年2月28日
が元気になる、そういう本です。この本の中から高校生の皆さんに一つ紹介するよさまで帳消しにする」という言葉です。たとえ、人柄がよくて、成績優秀な人間であっても、マナー（礼儀）を欠くことで、それまでのプラスのイメージがまたたく間に消えてしまうのだ、ということの意味は、す。人との信頼関係は、ゆつくりと時間をかけて築いていけるものですが、たった一言、あるいは一瞬の態度の悪さによって、その信頼関係が崩れてしまうことがあります。つまり不作法（無作法）な態度をとることとは、自分で自分の価値を下げてしまうことになりかねません。私自身の人柄がよいのか、よくないか、については生徒の皆さんに判断してもらおうとして、せめて礼儀を尽くすことで、少しは「人柄」がよくなるように『自助論』を手日々努めているところです。皆さんもよかつたらご一緒

した。そんな歓喜に沸いた一方で、シーズン中の昨年7月、元阪神タイガースの横田慎太郎選手が脳腫瘍のため28歳の若さで亡くなりました。そこで、今回紹介するのは、将来を期待された横田選手の実話である「奇跡のバックホーム」です。この本は、序章「神様の演出」から始まり、プロ野球選手になるまでの道のり、プロ野球生活、闘病生活、それを乗り越え、しかし、目の状態が改善されず、24歳で引退を決意。本では「異例の引退試合」と書かれています。そこで生涯ベストプレーとなる「奇跡のバックホーム」がありました。私が読んだ本には、新章「2度目の闘病」が綴られ、裏表紙には、絶望と苦しみの日々に見えたものとは？と書かれています。脳腫瘍と診断された時のことや過酷な闘病生活、引退するまでの思いなどを完全に理解することはできません。しかし、私自身にもあの時のことがあったからこそ、今に繋がっているのかな、と少し重なる部分があります。阪神ファンではなくても、一度読んでみてください。横田選手の言葉に背中を押してもらえるかもしれません。

「皆さんに「アルジャーノンに花束を」」 ダニエル・キイス 著

二年一組 担任 田中 史哉

皆さんに紹介したい本はダニエル・キイス作「アルジャーノンに花束を」です。この作品のあらすじは、主人公のチャーリーが、知的障がいのある男性として生活している中、科学の実験によって驚異的な知性を手に入れ、一時は周囲の人々を凌駕します。しかし、その知性が彼にもたらす苦悩や孤独、そして自己を見失う過程が描かれています。物語の構成や文体が魅力的であり、最初は稚拙で間違だらけの文章だったのが、次第に研究者や官僚が書くような文体へ変化し、チャーリーの知性が発達する様子を描いています。

この小説の魅力は、チャーリーの成長と変化を通じて、人間の心の複雑さや儂さが丹念に描かれている点にあります。彼の知性が高まるにつれて、彼の内面に生じる変化や周囲との関係性の変化がリアルに描かれており、読者は彼の心情に共感し、彼とともに喜びや悲しみを分かち合うことができると思います。チャーリーの内面の葛藤や成長を追う過程で、読者

「神話」の歩き方」 平藤 喜久子 著

一学年 担任 平原 豪士

この作品は、これからの人生において自分自身や他者との関係を深く理解し成長するための教訓や生きる知恵が詰まっています。是非読んでください。この作品は神話に関するストーリーや、その神話が伝わる土地の場所（神社、観光地）などを掲載しており読むことでその場所にいった気分になつてくれるような1冊になっています。

みなさんは休日など、どのように過ごしていますか。私は大学時代に、パワースポットや神社、観光名所などを巡り、いろいろな場所に遠出をすることに、はまった時期がありました。元々はあまり興味があつたのですが、いざ行ってみると自然の素晴らしさやそこから見える景色など、非日常的な空間があり、心身ともにリラックスでき、たことを覚えていきます。今回紹介する作品は、神話というところで神社に関する情報が多く掲載されています。みなさんは神頼みという言葉や一度は聞いたことがあ

「本日は、お日柄もよく」 原田 マハ 著

一年五組 担任 松田 悠希

としたいと思います。試験や部活動の大会などの大事な場面では、今までやってきた積み重ねが結果として出るのが普通です。その中で普段からのよい行いや、いいことの積み重ねが、自分にチャンスをもたらしてくれていると感じる部分もあります。この作品では多くの神にまつわる話やおすすめスポットなどが紹介されているため、ぜひ一度読んでみて、少しでも興味を持ってほしいと思います。そして行ってみたい場所を一つ見つけて、実際に行つて体験してください。

皆さんは、普段どのような言葉を発していますか？言葉とは、生活するうえでとても身近で、だれもが使用する欠かせないものです。今回は、その言葉の魅力について気付けさせてくれる本を紹介いたします。私はこの学校にきて驚いたことがあります。それは、皆さんが普段発している「言葉」にです。人の悪口や、何か嫌なことがあつたときに吐いている暴言など、負の内容を耳にする場面がとて多く、少し残念に思うことが

あります。生きていれば、さまざまな出来事がありますよね。それは、良いこともあれば良くないこともあり、喜怒哀楽さまざまな感情になると思っています。人間だれしも意思があつて、それをおもてに出すことができます。その方法として、自分の意思を「言葉」にのせてあらわしたり、伝えたりすることができませんよね。ただし、使い方によって言葉は人を傷つけますし、逆に励ましもしません。相手を落ち込ませるのも、元気になるのも、すべて話す人次第です。せつかく使うなら、良いほうに言葉を使ってほしい、そう思います。

エネルギーに満ち溢れている子が多いからこそ、ぜひそのエネルギーを良いことに使ってください。そんなことを伝えてくれる本かなと思いません。気になった人は読んでみてください。私の推し作家は伊坂幸太郎なので、ぜひそちらも読んでほしいです！

『学力』の経済学

中室 牧子 著

二年四組 担任

横部 勲生

子供が生まれて、私が親になって改めて考え始めたことがある。子どもをどのように育てたいの？子どもはほめて育てるべき？勉強

をさせるためにご褒美で釣るのはいいの？皆さんはこのような問いに何と答えますか。今回紹介したい本『「学力」の経済学』では、個人の経験や主観的な考えから答えるのではなく、科学的根拠で解き明かし答えていきます。

本書のなかで、何に対してご褒美を与えたら学力の向上につながるのかという内容があります。高校生の皆さんもほめられたりご褒美があると、勉強に対してもやる気が起きますよね。テスト勉強を頑張ったという「過程」に対してご褒美を与える場合と、テストで良い点数をとったという「結果」に対してご褒美を与える場合だと、学力が向上していくのはどちらだと思いますか。このような学力に関する身近な事柄を取り上げて研究の結果や分析が記されています。タイトルの「経済」から難しそうなイメージがあるかもしれませんが、読みやすくして私はずらすると読み切っていました。

最終的には、勉強が一番大事という本ではなく、他のある能力を上げる必要性も説かれていきます。日頃の学校生活で意識しておこなえる内容もあるので、ぜひ読んでもらえると思います。

「仕掛学 人を動かすアイデアのつくり方」

松村 真宏 著

事務局 松村 篤恭

毎日のように学校で勉強している皆さんにとっては、いろいろな教科や専門的な知識を学ぶことが大事なものだとわかっていても、難しい！何のため？と、勉強に手が付かないこともあると思う。さらに、この本の題名にもなっている、〇〇学と聞くとなんだか難しい学問を想像する人も多いと思う。「仕掛学」はそんな〇〇学の一つになると思うが、身近な社会問題を、小難しくなく、ローコストかつユニークなアイデアで解決できるきっかけになるのではないかと思われ。

まず、表紙のゴミ箱のうえにバスケットゴールが描かれた絵が印象的で、ついゴミを投げてしまう衝動と投げた動作の目標物の組み合わせがしっくりきて、タイトルの「人を動かすアイデア」を知ることができれば、人間関係や仕事をするのにメリツトがあると漠然と感じて、読み始めた。難しい数式や理論などは割愛されていて、一般人が読んでも感覚的にすぐくわかりやすい表現で書かれています。しかも、著者が日常で気が付いた様々な「人を

動かすアイデア」を写真付きで紹介していて、そのアイデアを分類しているため、なるほど！と納得感が得られる。さらに、デザインや環境などの要因から私たちの行動選択を誘導する手法を学ぶきっかけになる本だと思う。

この本を読んだ後には、毎日の生活の中で、いろいろな人や企業の工夫などが見えて、何かアイデアを出すときの考え方が変わる、かもしれない。



図書館より

六十九回生の皆さん、卒業おめでとうございます。進学する人も社会人になる人も本を読むことは、気分転換にもなり、新たな発見があり、新生活の何らかの助けになると思っています。

現在私は、『父と娘の認知症日記』という長谷川 和夫さんと娘さんの南高 まり

さんの著書を読んでいます。この本は、認知症専門医の医師自身が認知症になったことよって、その経験を多くのの人に伝えてくれると同時に娘さんの視点からも家族として父親と向き合う姿勢を示してくれる本です。私の母も今93歳で認知症です。同居し、老々介護中です。ヘルパーさんに助けをいただながら、毎日を楽しく過ごしています。始めはどうしていいかわかりませんでした。母が幼稚園ぐらいの子供になつてしまった感じで、途方に暮れてしまいました。しかし、母に「お母さん」と呼ばれたときに、立場が逆転したことに気づき、私もヘルパーさんのように行動すればいいのか！と思いました。

そこから、何かあれば面白がりながら毎日すごしています。時々母は私に向かって合掌しながら「ありがとう」と言ってくれます。

周りの人に多大な迷惑をかけていますので、私も心の中で合掌しながら謝罪と感謝の気持ちをもっています。皆さんもこれから仕事を

していくと、悩むこともあると思います。そんな時は本に触れて、違う生き方をしてい

る人に刺激をもらおうと違う視点から現在の状況が見えてくるかもしれません。

正しい判断と行動のできる、しっかりと大人になつて



編集後記

「館報あかね」第一一八号をお届けします。「読書のすめ」には、今年度、新しく着任されました先生方を中心に執筆をお願いにあがりまして、快くご承諾いただきました。誠にありがとうございます。生徒の皆さんの新たな本と出会いや、知らなかった世界を広げることのきっかけになれるように願っています。

令和六年度の新着本は、七月中旬に届く予定です。今回、先生方にご紹介いただいた本も蔵書の無い分については、購入して手に取っていただけようにするつもりです。

是非図書館に来て先生方の推しの本を読んでください。また読んでみたい本があれば、図書館の担当者か図書委員に連絡してください。出来るだけ希望の本を揃えるようにしたいと考えています。

またホームページに、図書館の最新案内を掲載していますので、ホームページもチェックして、是非図書館を利用してください。

(図書館長)